

キャッチフレーズ案

- みんなで無くす、社会のバリア
- 今日からあなたもパラ応援大使！
- 試合のお後がよろしいようで
- 全ての人が笑顔と共に！！
- アスリートの皆さん、あなたの汗が未来の希望
- 身も心もバリアフリー 世界から東京へ！
- 1、2、3 パラーン！ みんなでエールを送ろう
- みんな違って、みんな同じ
- 長所は短所、短所は長所
- 限界は障害を越え感動を生み出す
- everybody needs somebody (to love!) (誰もが誰かを必要としている)
- we can fly! (みんなではばたこう!)
- change the world from Tokyo. (東京から世界を変える)
- ともに新しい未来へ、ともに新たな未来へ
- 誰もが違いを認めて素敵に輝く社会を目指して！
- 誰もが輝く社会を！
- 誰もが友達になれる都市TOKYO
- ハードとハート
- HEART PROJECT
- あなたは知っていますか？ パラアスリートを
- 開け多様性。パラスポーツの力
- キミの声、あなたの手で未来にはばたけ！
- 不自由は無限の自由だ
- 人間のポテンシャルに気づくとき
- いまみんなで作りたい共生社会へのあゆみ
- 一人ひとりが行動して実現する共生レガシーを
- みんなのパラスポーツ、みんなのまち、みらいのレガシー
- TOKYO から始まる Harmony

<活用方法等に関する意見>

- ・メンバーが発信することがパラリンピックのソフトレガシーになる
- ・パラスポーツイベント等に使用
- ・駅や電車のつり革など沢山の方が利用する場所に貼るポスターに使用
- ・羽田空港や東京駅・秋葉原・新宿駅など外国人観光客が多く集まる施設等にポスターを掲出
- ・パラ応援大使のシンボルとなるグッズ等に使用
- ・スタッフのTシャツやうちわ等のグッズに掲示
- ・日頃の活動からイベント等まで、すべての広報に活用
- ・キャッチフレーズを使ったウェブの作成
- ・イベント、広報、キャッチフレーズのハッシュタグを作成、懇談会の様子をSNSで発信する際に使用
- ・電車内や駅構内のデジタルサイネージを活用した発信
- ・「開け多様性。パラスポーツの力」はパラスポーツ関連の事業に、「開け多様性」はパラリンピック以降でも都の広範な施策の主要テーマとして使用

懇談会活動のアイデア

【競技会場等の視察、競技観戦・体験】

- 競技会場を見学すると大会を実感できる
- パラリンピック会場の最寄り駅からのルート確認（主に坂や段差など）
- 競技会場へのアクセス、都内の主要観光地のバリアフリー状況のチェック
- 細かな配慮と告知で多くの方が集える快適な空間となるよう、視察を通して意見を伝えたい
- 競技のはりつめた空気を感じてみたい
- パラ応援大使がパラの競技大会を応援に行く。競技を体験する

【パラリンピックの観戦・応援】

- パラ応援大使がみんなでパラリンピックを応援に行く
- 先頭に立ってパラリンピックを観戦する
- 小中高生などがパラリンピックを観戦できる枠があるとよい

【意見交換のテーマ等】

（パラスポーツの振興・パラリンピックの盛り上げ）

- 注目選手の個性をわかりやすく伝える手段について意見交換
- 担当の競技を決め、理解を深める
- 各メンバーが「私のパラスポーツ」というテーマで競技種目を選択し、グループ懇談を実施
- 集客の現状、オリンピックの盛り上がりの継続の維持をどう考えるか
- 障害者のスポーツは特別のものであるという理解でなく、アスリートが自分に向き合い高めていくことが全ての人に共通するということを理解してもらう
- パラスポーツ選手の「見えない心の強さ」の認知、共有、伝承のための意見交換
- パラスポーツを（単に）障害のある人のスポーツとせず、この社会の多様性という文化を開いていくための入口として考えていく
- メディアの影響力は大会成功において必要。関係者を招いた勉強会の実施
- パラ選手への想像力を膨らませることができる競技体験会など参加型イベントの開催

(心のバリアフリー関連)

- 一般の人にも懇談会に参加してもらうのが良い。日頃、障害のある人と職場で一緒に仕事をしている人やアスリートでない障害のある人などの生の声を聞く
- 2020年はバリアフリーという言葉が施設に使われる言葉ではなく、人の心を指す言葉にしていけるとよい
- 障害者に対する各メンバーの思考変換プロセスを共有し、社会に「気づきの重要性」を伝えるにはどうすればよいか意見交換を実施
- 心のバリアフリーを広める活動の方法。ハードとソフト両輪で
- ハード面でバリアフリー整備がされていない場所でのプラス1のサポート
- 各地域で継続的に実施されることが重要。メンバーが手分けして各地で大会レガシーイベント「都民みんなで作る共生社会」を実現
- IPCが掲げるパラリンピックの価値(専心、勇気、平等、インスピレーション)の理解促進
- おもてなし(接客)側としての障害のある方の活動参加
- 音楽を通して出来る社会貢献

(施設・環境のバリアフリー関連)

- ホテルのバリアフリールームの基準見直し
- 公共交通施設、道路施設など、多様な人たちが移動しやすいまちづくりの手法について情報共有。様々な場所を移動するときの「安心の連続性」を確保する方法を考える機会を提供

(情報のバリアフリー関連)

- ユニバーサルデザイン設備への誘導・案内板の設置・強化
- 点在する障害者向けのインターネット情報を統合したわかりやすいサービス
- バリアフリー情報の展開(マップ等)
- 「アクセシブル・ジャパン」(障害者向けに日本を訪れる際のアクセスや観光情報を掲載した英語ウェブサイト)の活用
- 補助犬に関する排泄情報など